あすから全日本大学野球選手権

第二十回全日本大学野球選手権大会（十六日から五日間、神宮、神宮第二球場）の組み合わせ抽選会は十四日午前十一時から東京・渋谷の連盟事務所で開かれ、別表の通り決まった。本命とみられる法大、亜大の両横綱がA、Bブロックに分かれ、優勝はこの両者で争われる公算が強い。〝日本一〟を目ざす両校の表情を追うとともに話題のチーム、選手を紹介してみた。なお入場式は十六日午前十時半から神宮球場で行なわれる。

組み合わせ決まる

王者法大　東京六大学史上三度目の四連覇を遂げた法大。いまや大学球界で着々と〝王国〟を築きつつある。ただ一つシャクの種はこの四連覇中で一度も〝大学日本一〟の際を手中にしていないこと。過去この大会は東京六大学十一、東都五、関西大学連合、首都、慶知がそれぞれ一回ずつ優勝している。だが最近の七年間で東京六大学が日本一をとったのは四十三年（法大）だけ。昨年の覇者中京大にみられるように地方大学の進出ぶりが目立ち〝地域格差〟はなくなってきた。

そうはいっても東京六大学には大学野球の〝先進連盟〟の自負がある。法大にしても昨年のように決勝進出さえ果たせずコロッと負けていては栄光の四連覇にキズがつこうというもの。「リーグ戦至上主義」の声も負け犬の遠ぼえになりかねない。

だから五明監督は「もちろん負けるわけにはいきませんよ」ときっぱりいった。この「負けられない」気持ちは選手自身が一番強く感じている。昨年、法大は準決勝で関大にあと味の悪いサヨナラ負けを喫した。しかも続く神宮大会で八幡大の前に初戦で敗れた。

「なめたわけではない。たまたま調子が落ちていただけ。今度は一つじっくりと戦ってみせます」と藤村主将。エース横山も「借りを返さなければ……」と静かに腕をぶしている。王者法大は文字通り王者の面目をかける。

初顔亜大　初出場は全部で六校。大学選手権史上初めて、短大として出場する北海道産短大のような異色チームもあるが「亜大が初出場」と聞いてもピンとこない人が多いだろう。過去二度の優勝がいずれも秋のリーグで出場の機会に恵まれなかった。それがこの春四年ぶりの優勝でようやく〝出番〟がきた。矢野監督以下ナインの張り切りようは異常でさえある。

先月二十一日に優勝を決めてからこの大会一本に絞って猛練習。「リーグ戦よりきつかった」（正木マネジャー）というぐらいだから意気込みのほどがよくわかる。亜大はことし春のオープン戦では法大と対決し8−7で辛勝した。この両校、毎年定期的にオープン戦を組むが、亜大が勝ったのは初めて。勝利投手になった山本は「だいぶ打たれたが法大は左が多いので投げやすい。順当に行けば決勝で法大と当たりそうだが、今度はピシャリ押えてみせます」どえらく威勢よかった。矢野監督も「投手力がいいので攻撃一本で打ち込める。幸い打線の調子が上がってきたのが心強い。どこがきても〝どんとこい〟の心構えです」とこれまた自信たっぷり。〝実力の東都〟の看板を守り通そうとしている。

話題の選手　連覇をねらう中京大に槙本（拓銀）の跡を継ぐエースが誕生した。上西博昭――四十四年春の選抜で優勝した三重高のエースだった。今大会出場投手のうちただ一人の甲子園優勝投手だ。以後ヒジを痛めて出遅れていたがようやく全快。「まだ本来のスピードが出ない」と滝監督はいうが、徐々に甲子園の勇姿を取り戻してきた。「ウチは上西のほかに沢田、柴田といるが、いずれもどんぐりの背比べ。甲子園のキャリアを買って上西を中心にやりくりしてきた」と滝監督。もちろん大学選手権も上西を前面に押し出して連覇をねらっている。このほか同大には昨春の選抜に出場した笹本（鳴門）福岡大の内山田（筑紫中央）らが神宮初デビューに備を持っている。

【佐々木紘】

法・亜大の決戦か

上西で連覇ねらう中京大

法大・横山　亜大・山本

第20回全日本大学野球選手権大会組み合わせ

- 20日 1.30 ①
  - 19日 12.00 ①
    - 18日 12.00 ②
      - 16日 11.30 ①　静岡大㉑（中部地区）
      - 16日 2.00 ①　神奈川大⑩（神奈川五大学）
    - 18日 2.30 ②
      - 16日 4.30 ①　亜大㉑（東都大学）
      - 16日 11.30 ②　東京電機大㉑（東京新大学）
  - 19日 2.30 ①
    - 18日 12.00 ①
      - 16日 2.00 ②　北海道産短大㉑（北海道地区）
      - 17日 12.00 ①　帝京大㉑（首都大学）
    - 18日 2.30 ①
      - 17日 2.30 ①　法大⑭（西部地区）
      - 松山商大⑥（東京六大学）
      - 千葉工大②（東部地区）
  - 19日 2.30 ①
    - 18日 2.30 ①
      - 17日 2.30 ①　同大③（関西六大学）
      - 福岡大④（九州六大学）
    - 18日 2.30 ①
      - 16日 11.30 ②　広島商大⑤（広島六大学）
      - 東京電機大㉑（東京新大学）
      - 16日 2.00 ①　福岡工大⑥（九州地区）
      - 中京大⑪（愛知大学）

【注】①は神宮球場②は神宮第二球場、学校名下の丸数字は出場回数、カッコ内は代表連盟名

日刊スポーツ

東京電機大 2−5 広島商大

（1回戦）　17日　神宮第二第1

東京電機大（東京新大学）（安打）
広島商大（広島六大学）（安打）
17日　神宮第二第1（1回戦）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
東京電機大	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
広島商大	3	1	2	0	1	2	0	0	0	X	5

広商大は初回二死後、立川が安打、二盗の船井を置き左翼場外に先制ホーマーを放ち、3回には右中間三塁打の山中を立川の右犠飛で還して3点目。4回にも3安打で2点と東電大の富岡を打ちまくった。

富岡は球速はあるが球質が素直で好球をねらい打たれた。それでも5回以後2安打無得点に押えただけに前半の失点が惜しまれる。

広商大の山本も球威はあるものの制球が甘い。東電大は、2回新井の左越え二塁打から1点、7回は3安打で1点をあげ、なおも二死二、三塁と山本を追込んだが、田中が三振に倒れた。

＝観衆一、五〇〇＝（釜勝博）

日刊スポーツ

東京電機大　2−5　広島商大
（1回戦）　17日　神宮第二第1

東京電機大

		打数	得点	打点	三振	死球	盗塁
6・三	上（電　大④）	4	1	0	2	1	2
5・遊	鈴木（　境④）	4	0	0	1	1	0
7・左	浅見（都鳥山工②）	5	2	0	0	1	2
8・捕	田中（済々黌④）	3	3	0	0	1	1
9・一	田崎（横　手④）	3	0	0	0	1	0
1・遊	岡（新潟南②）	4	0	0	2	1	0
2・右	新井（電　大②）	4	4	1	0	0	0
3・投	村上（八　代②）	4	2	0	0	0	0
4・二	山口（竜ケ崎一②）	2	1	1	0	0	1
	計	31	6	2	9	6	2

広島商大

		打数	得点	打点	三振	死球	盗塁
2・遊	西本（広島商④）	5	0	0	0	0	0
7・中	山中（広島商④）	4	1	1	0	0	0
6・捕	船井（広島商④）	4	2	2	1	0	0
3・左	立川（基　町④）	3	2	2	0	0	0
1・一	山本（広島商③）	4	2	0	0	0	0
4・二	田口（尾道商④）	4	2	1	1	0	0
5・右	宮田（光　④）	4	0	0	0	1	0
H5・捕	谷本（崇　徳②）	1	0	0	0	0	0
8・投	橋本（広島商③）	4	1	1	0	1	0
9・投	水戸川（尾道商③）	4	2	0	0	0	0
	計	35	11	5	1	1	1

▽本塁打立川1号（富岡）▽三塁打山中▽二塁打山本、新井

		回数	打者	打数	得点	三振	死球	盗塁
捕	山本	9	3	9	6	2	2	1
投	富岡	8	3	7	1	1	5	4

▽犠打東2広1▽盗塁東0広5（船井、山本、橋本2、水戸川）▽残塁東10広8▽捕逸新井▽併殺東1（❷鈴木一村上＝水戸川）広1（❹山本一立川）▽2時間01分▽審判日下部、内田、麻生、岸田

電機大、追撃及ばず

（東京新大学）東京電機大　010　000　100　2
◇一回戦
（広島六大学）広島商大　201　200　00×　5

◇17日　神宮第二＝第一◇開始11時30分◇観衆2千

出場五回の広島商大（広島六大学）が初出場の東京電機大（東京新大学）に雪辱勝ち。攻守走に一枚上の力を発揮した。初回、四番立川がO−2からの真ん中カーブを左翼場外へ2ラン・ホーマー。試合の主導権を握ると三、四回にも3点を加え投手山本を盛り上げた。

山本は内外角にボールを散らして好投。球威はなかったが、東京電機大の打ち気をうまくはずして翻ろうした。東京電機大は二回、二塁打の新井が次打者村上の一塁ゴロで三進。このチャンスに山口がスクイズを決め、1点を返し、さらに七回、3本のヒットを集めて2点を取ったが、これが精いっぱい。

制球難の山本を冒あめぐみ10残塁、5盗塁を許した捕手の弱肩、記録に表われない拙守などで自らの墓穴を掘った。

広島商大伊賀監督の話　十五日の練習で調子は最高に近かったので、いけると思っていた。山本は気負い過ぎて球に伸びがなかった。打線も大振りが目立った。でも一回戦を勝ってホッとした。

スポーツニッポン

全日本大学野球選手権

前年優勝の中京大 コールド勝ち

亜大、16三振を奪い楽々

第一日

第二十回全日本大学選手権大会は十七日、神宮、神宮第二球場で開幕した。午前十時半から、神宮球場で入場式が行なわれ、前年度優勝・中京大の優勝杯返還、静岡大・岡野主将の選手宣誓があり、大学野球連盟・外岡茂十郎会長の始球で、十一時三十二分から第一回戦五試合が行なわれた。（晴れ、観衆＝神宮・二千、神宮第二・二千）

（神宮）

静岡（中部地区）0 ［1回戦・第一試合］ 7 中京（愛知大学）

大 0000 0000 0 / 0000 2203 X 7

（規定で7回コールドゲーム）

神奈川（神奈川五大学）4 ［1回戦・第二試合］ 2 福岡工大（九州地区）

大 0100 1000 0 / 0003 0010 X

（神宮第二）

亜大（東都大学）6 ［1回戦・第三試合］ 0 東北工大（北部地区）

大 0021 0100 2 / 0000 0000 0

生田が2ホーマー

前年優勝の中京大が、生田＝1試77、73キ、左投左打、中京高出、二年＝の2本塁打、5打点の大活躍で静岡大にコールド勝ちした。生田はヤクルトのドラフト選手で、ベース一周14秒8の俊足。一本目は内角低めのストレートを右翼芝生席95メートルへライナーでたたき込み、二本目は外角高めのストレートを左越に流し打ちして、中継のモタつきをついてランニング・ホーマーにした。

投手陣は先発沢田（中京商出、三年）が左腕からのカーブで五回を二安打とまずまずだったが、期待の選抜優勝投手上西（三重高出、二年）は腰痛のため、打者二人で降板。やはり投手陣の不安は中京大のアキレスけんだ。

平均身長1メートル78の大型チーム、神奈川大は、福岡工大・近藤実（西条高出、二年）のコーナーワークにかわされて、あっさり姿を消した。

初出場初優勝をねらう亜大は、山本一磯口が東北工大から16三振を奪い、攻めても野田が代打ホーマーを放つなど、余裕たっぷりで完勝した。（浜崎）

【静岡大】

		打	安	点	失
（右）屋	守	3	1	0	0
（三）林	②	3	0	0	0
（左）中	②	3	0	0	0
（中）山	②	3	0	0	0
（一）岡	②	2	0	0	0
（投）高	③	3	0	0	0
（二）瀬	③	3	0	0	0
（代打）鬼	②	1	0	0	0
（二）安	①	2	0	0	0
（捕）石	①	1	0	0	0
（遊）太	①	3	0	0	1
計		25	5	0	1

【中京大】

		打	安	点	失
（三）鈴	木④	2	0	0	0
（右）田	中④	4	1	0	0
（中）生	田②	4	2	1	0
（遊）清	田④	4	3	5	0
（捕）大島	忠④	2	0	0	0
（一）稲	山④	2	0	0	0
（左）伊	藤②	3	0	0	0
（投）川	口④	3	0	0	0
（投）沢	田③	2	0	0	0
（投）上	西②	0	0	0	0
（投）柴	田②	1	0	0	0
（二）吉	川④	3	1	1	0
計		26	8	7	0

▽本塁打　生田1号、2号（籠谷）吉川1号（籠谷）▽二塁打　鈴木

投手成績

	回	打	安	三	四	自
●籠谷	6	30	8	2	4	6
○沢田	5	17	2	6	1	0
上西	0	2	1	0	0	0
柴田	2	8	2	3	0	0

▽犠打　両軍0▽盗塁　静0、中1▽併殺　両軍0▽残塁　静6、中5

【神奈川大】

		打	安	点	失
（中）福	間④	4	1	0	0
（右）新	美④	4	2	0	0
（一）奥	谷④	4	0	0	0
（二）加	藤④	4	0	0	1
（捕）織	田②	3	0	0	0
（代打）丸山	仁④	1	0	0	0
（捕）清	家④	0	0	0	0
（三）上	田④	3	2	0	0
（遊）中島	隆③	4	2	0	0
（左）小	林④	4	2	1	0
（投）神	田②	1	0	0	0
（代打）松	永④	1	0	0	0
（投）丸山	静④	1	0	0	0
計		34	7	2	1

【福岡工大】

		打	安	点	失
（一）出	山④	3	0	0	0
（遊）弓	栖④	3	1	0	0
（捕）清	家④	3	1	0	0
（三）戸	田④	3	1	1	0
（左）鳴	崎④	3	2	1	0
（右）竹	村④	4	2	1	1
（二）森	口④	4	1	1	0
（投）近藤実	②	3	1	1	0

（神宮第二）

電機大（東京新大学）2 ［1回戦・第一試合］ 5 広島商大（広島六大学）

大 0100 0001 00 / 2012 0000 X

（規定で7回コールドゲーム）

北海産短大（北海道地区）0 ［1回戦・第二試合］ 8 帝京（首都大学）

大 0000 0000 0 / 2000 033 X

【電機大】

		打	安	点	失
（遊）三上	④	4	1	0	0
（三）鈴木	④	2	0	0	0
（左）浅見	②	5	2	0	0
（中）田中	④	3	0	0	0
（右）柴田	④	3	0	0	0
（投）富岡	④	4	1	0	0
（捕）新井	②	4	1	0	0
（一）村上	②	4	0	0	0
（二）山口	②	2	1	1	0
計		31	6	2	2

【広商大】

		打	安	点	失
（捕）西本	④	5	0	0	0
（左）山中	④	4	0	0	0
（遊）船井	④	4	2	2	0
（一）立川	④	3	1	2	0
（投）山本	③	4	2	0	0
（三）宮田	④	4	2	0	0
（三）谷口	④	4	2	1	0
（打）本田	②	1	0	1	0
（中）橋本	③	4	1	0	0
（右）水戸川	③	4	2	0	0
計		35	11	5	1

▽本塁打　立川1号（富岡）▽三塁打　山中▽二塁打　山本、新井

投手成績

	回	打	安	三	四	自
●富岡	8	37	11	1	1	4
○山本	9	39	6	9	6	2

▽犠打　電2、広1▽盗塁　電0、広4▽併殺　両軍1▽残塁　電10、広8

報知新聞

第20回全日本大学野球選手権 第1日 17日・神宮第二……14

東京電機大（東京新大学） 0 1 0 0 0 0 0 1 0 0 2
広島商大（広島六大学） 2 0 1 2 0 0 0 0 X 5

勝投 山本 敗投 富岡（本塁打）立川①（富岡）

明暗分けた一回の攻防

両チーム、一回の攻撃が試合の明暗を分けた。その主役は四番打者。東京電機大は四球と安打などで一死一、三塁の先制機を迎えた。だが田中は初球の内角高め速球に手を出し、捕邪飛に倒れた。

これに対し広島商大は豪快な攻めっぷりを見せた。二死から船井が一、二塁間を抜き、続く立川は0－2から左翼場外へライナーでたたき出し2点を先行した。三、四回に計3点を加え試合を決定づけた。

東京中日スポーツ

ハーフタイム

一向に調子の合わない一般学生の応援に拍手がわき、一糸乱れぬ応援団にバ声がとんだ。十七日、第20回全日本大学野球選手権第一日の神宮、同第二球場。

亜大と東京電機大はともに集った学生約千人が好機がくると「その調子！」ピンチになると「がんばれ」。思い思いの声援に、一般のファンもつられて「その意気だ」。

一方"公害"と不評を買ったのは北海道産業短大の応援団。内野の一角を"立入り禁止"にして、ラッパズボンに日手袋の応援団が手振りをそろえながら打ちつづける大ダイコの音に、スタンドで見守る30歳のサラリーマンは「うるさくて野球もみていられない。やめてくれ！」。

毎日新聞